

区分		状態
I	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態。
II	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。
III	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

橋梁番号	橋梁名	【2020,2024年】告示に基づく健全性の診断の区分	【2025年】告示に基づく健全性の診断の区分	特記事項
402700102	銀南木橋	II 予防保全段階 →	II 予防保全段階	・交通量は少ないが、伸縮部からの漏水が桁下部材の劣化・損傷を助長する恐れがあるため、予防保全の観点から健全性の診断の区分はそのままとした。
402700103	白岩橋	II 予防保全段階 →	II 予防保全段階	・交通量は少ないが、主桁および横桁にはく離・鉄筋露出が確認され、さらに伸縮部からの漏水跡が確認されたため、予防保全の観点から健全性の診断の区分はそのままとした。
402700201	倉岡橋	II 予防保全段階 →	II 予防保全段階	・主桁端部にはく離・鉄筋露出が確認され、支承に腐食が確認された。交通量は少ないが、予防保全の観点から健全性の診断の区分はそのままとした。
402701801	一の坂橋	II 予防保全段階 →	II 予防保全段階	・交通量は少ないが、伸縮部からの漏水が桁下部材の劣化・損傷を助長する恐れがあるため、予防保全の観点から健全性の診断の区分はそのままとした。
402702301	作田橋	III 早期措置段階 →	III 早期措置段階	・床版に顕著な床版ひび割れ、遊離石灰の滲出が確認された。前回健全度1.0であった支承は補修済みだが、床版の損傷進行がみられるため早期措置段階とし、健全性の診断の区分はそのままとした。
402702302	和田下橋	II 予防保全段階 →	II 予防保全段階	・ある程度の交通量があり、床版および橋脚にひび割れ、遊離石灰の滲出が確認されることから、予防保全の観点から健全性の診断の区分はそのままとした。
402703001	左組橋	III 早期措置段階 →	III 早期措置段階	・下部工に顕著な損傷が確認された。交通量は少ないが、構造上の問題が懸念されるため、健全性の診断の区分はそのままとした。また、防護柵の路面からの高さが630mmと低いため第三者被害防止の観点から、防護柵の取替を行うことが望ましい。
402703701	宇道坂橋	II 予防保全段階 →	II 予防保全段階	・ある程度の交通量があり、床版にひび割れ、はく離・鉄筋露出が確認されることから、予防保全の観点から健全性の診断の区分はそのままとした。
402706701	和田橋	II 予防保全段階 →	II 予防保全段階	・ある程度の交通量があり、床版に遊離石灰の滲出が確認されるため、予防保全の観点から健全性の診断の区分はそのままとした。
402707001	西野橋	II 予防保全段階 →	II 予防保全段階	・ある程度の交通量があり、橋台胸壁にはく離・鉄筋露出が確認されることから、予防保全の観点から健全性の診断の区分はそのままとした。
402709801	砂子田橋	II 予防保全段階 →	II 予防保全段階	・床版にはく離・鉄筋露出が確認され、橋台壁にひび割れ、遊離石灰の滲出が確認された。さらに伸縮部からの漏水跡が確認されたため、交通量は少ないが、予防保全の観点から健全性の診断の区分はそのままとした。
402721101	治部袋橋	II 予防保全段階 →	II 予防保全段階	・床版にひび割れ、遊離石灰の滲出が確認され、支承に腐食が確認された。交通量は少ないが、予防保全の観点から健全性の診断の区分はそのままとした。
402726901	山館橋	II 予防保全段階 →	I 健全	・横桁にはく離・鉄筋露出が確認され、伸縮部からの漏水跡が確認された。損傷はみられるが、終点側道先が田畑で交通量も少なく、構造上問題がないため、健全性の診断の区分をあげることにした。
402733504	山屋橋	II 予防保全段階 →	II 予防保全段階	・主桁PC定着部にはく離・鉄筋露出が確認された。交通量は少ないが、予防保全の観点から健全性の診断の区分はそのままとした。
402737301	上田橋	II 予防保全段階 →	II 予防保全段階	・主桁および床版に遊離石灰の滲出が確認された。交通量は少ないが迂回路が遠いため、予防保全の観点から健全性の診断の区分はそのままとした。
402783601	大林橋	II 予防保全段階 →	II 予防保全段階	・主桁にひび割れ、はく離・鉄筋露出が確認され、支承に腐食が確認された。交通量が多く、国道4号へ接続する道路であるため、健全性の診断の区分はそのままとした。
402783603	大林橋側道橋(下)	II 予防保全段階 →	II 予防保全段階	・鋼部材に腐食による損傷が確認されたが、人道橋であり、活荷重による影響は比較的小さいことから、健全性の診断の区分はそのままとした。
402783604	柏葉橋	III 早期措置段階 →	III 早期措置段階	・床版や鋼部材に損傷が確認された。交通量が多く、国道394号へ接続する道路であるため、健全性の診断の区分はそのままとした。
402783605	柏葉橋側道橋(上)	II 予防保全段階 →	II 予防保全段階	・橋面水の供給による鋼部材の腐食が確認され、さらに垂直補剛材の板厚減少が確認されたため、健全性の診断の区分はそのままとした。
402783606	柏葉橋側道橋(下)	II 予防保全段階 →	II 予防保全段階	・下部工にひび割れ、遊離石灰の滲出が確認され、鋼部材に腐食が確認された。付近に公立七戸病院があり、当該橋梁の利用者も多いため、予防保全の観点から健全性の診断の区分はそのままとした。
402800101	白石橋	II 予防保全段階 →	III 早期措置段階	・縁石と舗装の継ぎ目の開口より雨水が浸入し、直下床版の削孔部から桁下へ雨水が流水していることが確認された。交通量は少ないが、桁下部材の劣化・損傷を助長する恐れがあるため早期措置段階とし、健全性の診断の区分を下げることにした。

区分		状態
I	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態。
II	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。
III	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

橋梁番号	橋梁名	【2020,2024年】告示に基づく健全性の診断の区分	【2025年】告示に基づく健全性の診断の区分	特記事項
402800301	鳥谷部橋	II 予防保全段階 →	I 健全	・交通量も少なく、損傷が軽微であり、構造上問題がないため、健全性の診断の区分をあげることとした。
402801201	貝塚橋	II 予防保全段階 →	I 健全	・交通量も少なく、損傷が軽微であり、構造上問題がないため、健全性の診断の区分をあげることとした。
402801401	千刈橋	II 予防保全段階 →	I 健全	・ある程度の交通量はあるが、損傷が軽微であり、構造上問題がないため、健全性の診断の区分をあげることとした。
402801501	榎林橋	III 早期措置段階 →	II 予防保全段階	・橋台胸壁にはく離・鉄筋露出が確認された。胸壁と主桁の接触はなく、交通量も少ないことから、健全性の診断の区分をあげることとした。
402801901	小又橋	III 早期措置段階 →	II 予防保全段階	・前回損傷は補修済みであるが、下部工に損傷が確認された。亀甲状のひび割れがありASRの懸念があるが、交通量は少ないため、健全性の診断の区分をあげることとした。
402802801	向中野橋	II 予防保全段階 →	II 予防保全段階	・橋台にひび割れ、遊離石灰の滲出が確認された。交通量は少ないが、予防保全の観点から健全性の診断の区分はそのままとした。
402803401	小川橋	II 予防保全段階 →	II 予防保全段階	・床版にひび割れ、遊離石灰の滲出、はく離・鉄筋露出が確認された。交通量は少ないが、予防保全の観点から健全性の診断の区分はそのままとした。
402805901	原子橋	II 予防保全段階 →	II 予防保全段階	・PC桁にひび割れ、遊離石灰の滲出が確認され、補修箇所の再劣化も確認された。交通量は多くないため、予防保全の観点から判定はそのままとした。
402810401	聆橋	II 予防保全段階 →	II 予防保全段階	・床版にひび割れ、遊離石灰の滲出が確認され、さらに伸縮部からの漏水跡が確認された。交通量は少ないが、予防保全の観点から健全性の診断の区分はそのままとした。
402811201	仙洞橋	II 予防保全段階 →	II 予防保全段階	・鋼部材の腐食、橋座面の土砂堆積が確認された。交通量は少ないが、予防保全の観点から健全性の診断の区分はそのままとした。支承部の劣化を助長する恐れがあるため、橋座面の土砂撤去を行うことが望ましい。
402816601	長坂橋	II 予防保全段階 →	II 予防保全段階	・交通量は少ないが、鋼部材の腐食やコンクリート部材のはく離・鉄筋露出等の損傷が多く確認されたため、予防保全の観点から、健全性の診断の区分はそのままとした。
402830001	原久保橋	II 予防保全段階 →	II 予防保全段階	・床版にはく離が確認され、支承に腐食が確認された。交通量は少ないが、予防保全の観点から健全性の診断の区分はそのままとした。支承部の劣化を助長する恐れがあるため、橋座面の土砂撤去を行うことが望ましい。
402831302	花天橋	II 予防保全段階 →	II 予防保全段階	・主桁PC定着部にはく離、うきが確認され、床版に遊離石灰の滲出が確認された。交通量は少ないが、予防保全の観点から健全性の診断の区分はそのままとした。
402831501	315の1号橋	II 予防保全段階 →	I 健全	・交通量も少なく、損傷が軽微であり、構造上問題がないため、健全性の診断の区分をあげることとした。